



EC-NL

情報処理学会 EC 研究会
ニュースレター

Vol.11 Apr 2015

参加報告

第 32 回 EC 研究会

柳 翔太, 米澤 朋子 (関西大学)

2015 年 3 月 2 日-3 日の 2 日間にかけて第 35 回 EC 研究会が山梨県の甲府富士屋ホテルで、音楽情報科学研究会と共催で開催されました。開催地は湯村温泉街でもあり温泉を満喫する事もできました。

最初に行われた合同企画セッション「『魅せる』の工学」では魅せるという観点から 4 人のパネリストの方がそれぞれの発表をしていただきパネリスト同士でトークが行われました。魅せるということだけでも様々な考え方や取り組みがあることに驚きを受けました。

私は『魅せる』の工学 (一般) セッションの中で「振動モータアレイを使った音楽の物理的臨場感提示システムの提案」というタイトルで発表しました。

トップ写真: SIGEC34 「『魅せる』の工学」セッションの様子

振動を前後左右から与える事で音の定位を振動においても生み出し、また振動に時間差を与える事によって新しい感覚として音の物理的通過感を体験させるという研究です。私は 3 回生という身で、研究発表も初めてだったので緊張もありましたが、質疑でおもしろいという言葉をいただき、またこれからの研究に活かせる様々な貴重なご意見を聞けたので大変ためになりました。

数多くの興味深い研究がありましたが、その中でも私が一番興味をもったのは京都産業大学の伊藤さんによる「BathDrum2: 叩打位置と音色を利用した浴槽打楽器」でした。日常生活の中で遊ぶ環境を提供するという発想は私にとって斬新なものでした。

また関西学院大学の小笠さんによる「インタラクティブプロジェクションマッピングの実践事例報告」では数千人の参加者が映像に対して操作し、映像を作り上げる演出をしており、また、インタラクティブ合同企画セッションのトーク内容にもあったフェールセーフ設計が用

いられていて、すごく作り込まれているなと感じました。

夜は宿泊部屋に集まってお酒を飲みながら懇談会が開かれました。研究者達の素の姿を垣間みる事ができましたし、普段聞けない話もたくさん聞く事ができてとてもよい時間を過ごせたと思います。

研究会自体、初めてでしたが、様々な研究に触れる事で刺激を受けましたし、また自分の研究を外部の人に見てもらえるよい機会になりました。今後もこのような機会がありましたら、是非参加したいです。



SIGEC34 での懇親会の様子

インタラクション 2015

梶田 創 (東京大学)

2015年3月5日から7日までの3日間にわたって、インタラクション2015が開催されました。今年是一般講演が日本科学未来館で、インタラクティブ発表がその隣の東京国際交流館で行われました。一般講演は16件、インタラクティブ発表は212件と数多くの発表が行われました。

私は「OpaqueLusion: 多層空中像におけるオクルージョン表現の基礎検討」と題したデモ発表を7日に行いました。空中像の多層化の際に生じる前後層が透けて見えてしまうという課題に対して、光学的なマスクを用いることで不透過な空中像を表示する手法を提案し、その評価をしたというデモ発表でした。学部生の私にとって、初めての学外での発表だ

だったので、当日は不安もあったのですが、デモを見ていただいた方々に様々なアドバイスをいただくことができ、今後の研究へ活かすことのできる知見をいただけたので、満足できる発表となりました。さらに、私の発表がインタラクティブ発表賞を受賞するという形で評価されたことも、今後の研究の意欲へとつながりました。

デモの中で、私が気になったものを2つ紹介します。1つめは「アニマルクラウド: 動物の認知機能を活かしたクラウドソーシングシステム」です。マイクロタスク型クラウドソーシングを、余剰時間を多く持つ動物に対して導入することを目的とした研究でした。ラットによる実験の結果、ワーカ数49で多数決正解数が98%にまで到達するというシミュレーション結果が得られたということで、

近い未来に実現されるのではないかという期待感を抱きました。

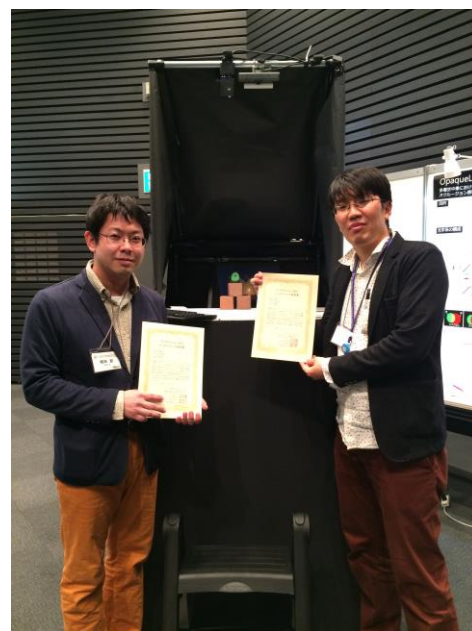
2つめは「デスクトップ・プレゼンスのための身体変形感を誘起する背面タッチインタフェースの研究」です。映像を手で直接操作する際に、手を映像空間いっぱい動かす必要があったり、手先の形状がアイコンに比べ巨大だったりといった課題から、操作手が操作に適した形状に変化する仕組みをつくり、身体変形感を誘発することを目的とした研究でした。身体変形感を誘発するために、認知心理学の知見から Rubber Hand Illusion を持ち出し、それに沿って身体変形感を得ようという試みが大胆で斬新だと思いました。インタフェースのさらなる進展が楽しみです。

今回のインタラクションも日本科学未来館で開催される予定です。

今後も学会や研究会など、学外の発表に積極的に参加したいと思います。ありがとうございました。



大盛況の会場

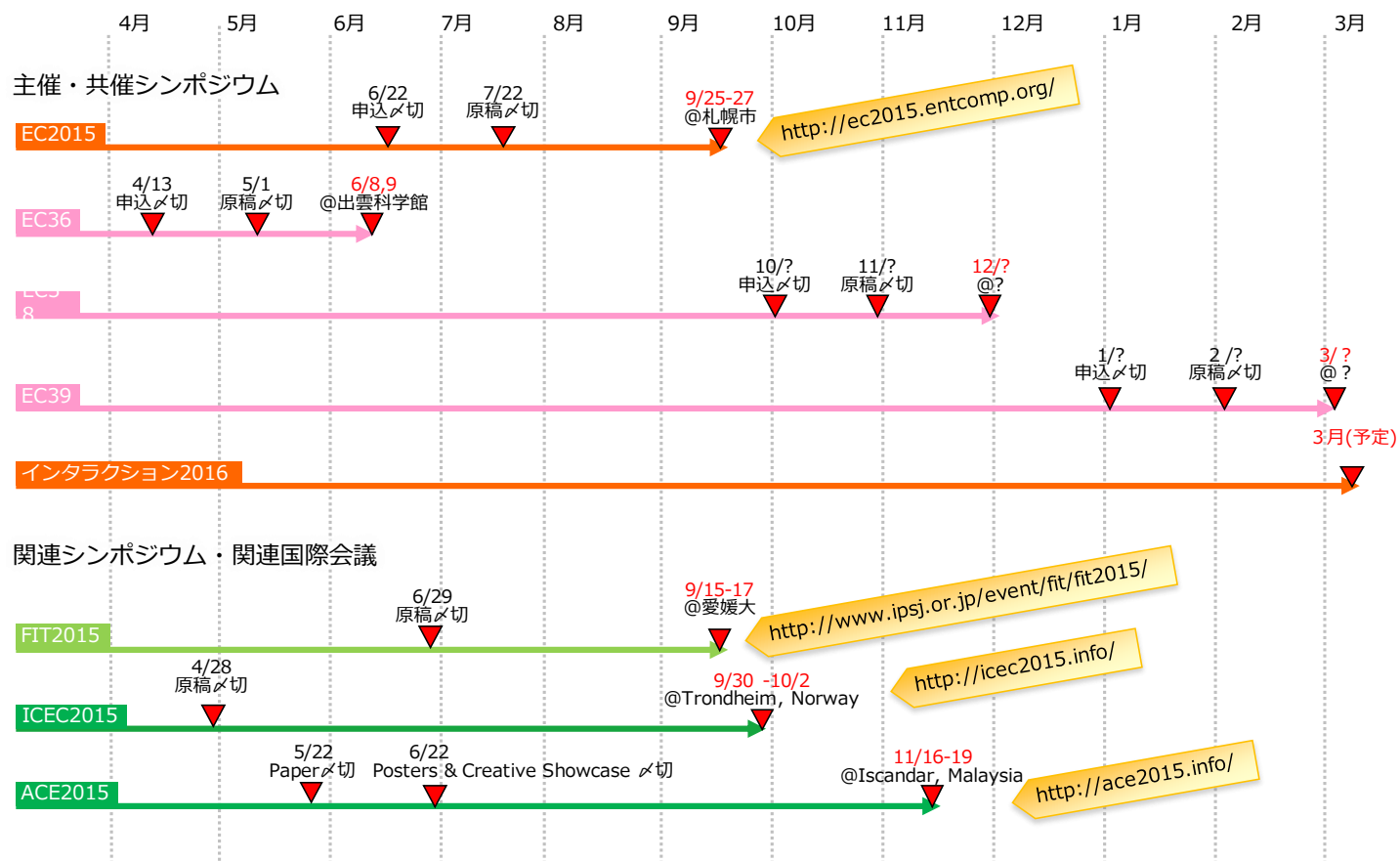


インタラクション受賞記念写真

2015 年度 イベントスケジュール

本年度の EC 研究会主催・共催・関連イベント一覧です。論文投稿，出張の参考にどうぞ！

主催研究会のスケジュールは <http://entcomp.org/sig/2013/index.php?page=cfp> をご覧ください。



2015 年度 新 EC 委員紹介

本年度は新しく、津田塾大学 栗原一貴先生、慶應義塾大学 杉本麻樹先生、計 2 名の方が EC 研究会の委員に就任されました。今号では新任の栗原先生のご紹介です。



栗原 一貴 (津田塾大学)



衛星写真からパターン認識技術でハート型の島や人面岩などの構造物を探したり、おしゃべりな人をしゃべりにくくする装置を作ったり、動画を極限的に早送りして高速鑑賞するシステムを開発したりと、便利そうな一方で特定の人の感情を刺激するような、物議を醸すシステム開発に興味があります。それ自身は確固とした有用性や哲学があるのに、ある角度、考え方、主義から眺めた時に別の価値があらわれるようなものに惹かれます。私はもっぱらHCI研究者だと思っていたのですが、あるとき自分の研究の系譜を眺めて、そこに無意識的に秘められたエンタテインメント性に気づき、それを言語化する知恵を学ばせていただこうと思い本研究会の門を叩きました。

[Information]

情報処理学会エンタテインメントコンピューティング研究会 ニュースレター

編集：

小泉直也 (東京大学) koizumi@nae-lab.org

大槻麻衣 (筑波大学) otsuki@emp.tsukuba.ac.jp

Web サイト：<http://www.entcomp.org/>

お問い合わせ：sig@entcomp.org

次回は 2015 年 8 月ごろの発行を予定しています。

